

一方で、医療機関は新型コロナウイルスの院内感染を恐れて発熱などの風邪症状の患者の受診を拒否するといった話もあります。

多くの人は調子が悪ければ、日頃通院している、かかりつけ医療機関を受診します。
だからこそ、かかりつけ医などの一般医療機関による検体採取が一番多くなっており、感染リスクの低い唾液による検体採取方法や、オンライン診療を更に導入し、医師の感染リスクを低減することで検体採取を実施する医療機関を増やすことが必要です。

Q：検体採取まで市民がスムーズに受けられる体制を作るべきと考えるが市の見解は？

A：今後は、院内感染リスクのないオンライン診療の推進により、来院しなくても診療情報提供書を発行してもらえる医療機関を増やしていくとともに、市民へのオンライン診療の周知を広く行い、受診しやすい体制を作ってまいります。

また、唾液による検査で院内感染リスクを減らすことが可能になったことから、検体採取用の容器の提供を積極的に行っていくことで検体採取を実施する医療機関の増加を図ってまいります。

皆様の声がカタチになりました！



並木地内、市道がじゃり道でしたので舗装を要望しました。



児童遊園ブランコ周りに柵が無く、子供たちが危険でしたので柵の設置を要望しました。

栗原みつはる プロフィール

昭和46年6月9日川越市岸町生まれ(49歳)、南古谷並木在住、6歳と4歳の娘の父

ひつじ幼稚園卒園、仙波小学校・砂中学校卒業	2017年1月	川越市議会議員に初当選
1990年3月 城北埼玉高等学校卒業	2017年9月	MKコンシスト(株)設立 取締役
1994年3月 立教大学経済学部経営学科卒業		デイサービスリーディング岸町運営(川越市)
1994年4月 カナダへ2年間語学留学	2019年4月	川越市議会議員選挙当選(2期目)
2001年5月 ワタミフードサービス(株)入社		文化教育常任委員会副委員長、土地開発公社理事
営業部長まで務め経営・サービスを学ぶ		議会運営委員会委員(代表発言者)
2012年9月 ワタミの介護(株)へ転職		自民党市議団政務活動費経理責任者、医療問題協議会委員
有料老人ホーム エリアマネジャー		所属団体：川越商業経営研究会、川越ライオンズクラブ
2014年12月 SKYケアサービス(株)設立 取締役		川越立教会、川越商工会議所青年部
2015年4月 川越市議会議員選挙に挑戦し、次点惜敗		岸町囃子連、南古谷歌謡サークル、KMC

ご意見・ご感想・皆様の声をお聞かせください！

南古谷事務所 〒350-0023 川越市並木77-8 携帯：090-6509-2419、電話：049-235-8425

岸町事務所 〒350-1131 川越市岸町1-25-18 電話：049-247-7701

2020年7月発行

川越市議会議員(自由民主党川越市議団)

栗原みつはる議会報告

「介護・福祉の未来」を創る～ Vol.13



【一般質問】 新型コロナウイルス第2波への備え



3月議会では新型コロナウイルス感染症感染拡大を懸念して一般質問は実施されませんでした。

しかし、6月議会ではマスク着用、また議場にもアクリル板を設置するなどの感染拡大防止対策をしての一般質問が行われました。

今回は市民の皆様が今一番関心が高いPCR検査についてを中心に登壇しました。

新型コロナウイルス感染症は昨年12月に中国武漢で発生が確認されて以来、現在日本では1万8千人を超える感染者、千人に迫る死者数を出しています。

また世界ではアメリカの約246万人の感染者数を筆頭に全世界で約982万人以上の感染者、49万人以上もの死者を出しており、その感染拡大の勢いは地域を変えて未だ衰えを見せておらず、毎日全世界で数万人単位で増加しています。

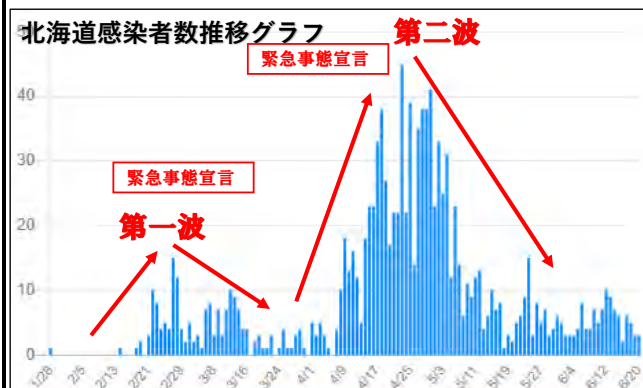
川越でもこれまで50人の方の感染が確認され、3人の方が亡くなられております。

	感染者数	死者数
アメリカ	246万7404	12万5039
ブラジル	127万4974	5万5961
ロシア	62万7646	8969
インド	50万8953	1万5685
英国	30万9360	4万3414
日本	1万8110	968
東京	6054	325
神奈川	1451	96
千葉	950	45
埼玉	1101	65
さいたま市	189	9
川口市	125	10
川越市	50	3

*R2年6月27日時点 *集計時点により誤差があります。

3月には学校休業、4月7日には緊急事態宣言が発出され、多くの方々が不安の中、行動を自粛しました。そして飲食店などでは休業要請が出され営業自粛、企業もリモートワークが推奨され経済活動も停滞することとなりました。

結果、感染者数も減少に転じ、5月25日には緊急事態宣言が解除されてきましたが、新しい生活様式など以前とは違った行動が求められています。



そうした中、それまで20日間以上感染確認がされていなかった北九州市で、5月23日に3名の感染確認を皮切りに連日感染確認がされ、以降約150名もの感染確認で第二波となっています。

それ以前にも北海道では国の緊急事態宣言に先駆けて道独自の緊急

事態宣言によって一度は収束しかけたように見えていましたが、再度感染確認が増加し、第二波と言われています。

今や多くの方は普段なら気にもならないような微熱や咳でも不安を感じ、自宅から出ることもできず、当然仕事も休まなくてはなりません。

市民にとっては、すぐに検査が受けられることが安心に繋がり、自分の命、大切な他人の命を守るためにも最優先で求められていることと考えます。

しかし、人が動けば感染が再拡大することは北海道、北九州、東京、海外では韓国の例を見れば明白であり、第二波は必ず来ると想定し、今のうちに体制を整えることが必要不可欠だとの思いから質問を通して提言をしました。

Q：PCR検査につながるまでの現在の検査体制は？

A：現在の検査体制は、一つ目として、症状を呈した市民の方が保健所の「帰国者・接触者相談センター」に相談し、新型コロナウィルス感染症が疑われる場合は、「帰国者・接触者外来」を受診します。「帰国者・接触者外来」の医師が、診察の結果PCR検査を必要と認めた場合は検体を採取し、保健所等で検査を行う場合です。

二つ目としては、かかりつけ医など、受診した医療機関の医師が検査を必要と認め、検体を採取し、保健所で検査を行う場合です。

また三つ目としては、川越市医師会で実施しているPCR検査センターでの検査です。この検査はかかりつけなどの医療機関の医師がPCR検査を必要と認めた場合に、診療情報提供書を作成し、医師会への検査の予約をし、PCR検査センターで検体を採取して民間の検査機関で検査を行う流れです。

Q：帰国者・接触者外来やPCR検査センターなどでの1日の検体採取可能件数、また保健所や民間検査機関でのPCR検査可能件数はどの程度なのか？

A：検体の採取は、帰国者・接触者外来では、1日10人～20人の診察が可能です。PCR検査センターでは、1日10人～15人の予約を予定しているようです。その他かかりつけなどの医療機関で1日合計40人の検体が採取されたことがあります。

検査可能件数については、保健所で実施できる検査数は、通常1日48検体で、緊急時には最大96検体まで可能です。また、この行政検査の体制を補完すべく、民間検査機関に依頼できるようにしていることから、一般の医療機関で採取された検査の申し出に対しても十分対応できる体制を組んでいます。

民間検査機関での1日当たりの検査可能数については、各民間検査機関によって異なりますが、1000検体を超える検査に対応できる検査機関もあります。

【ここがポイント】

現在の検体採取、PCR検査の基準は、最終的には医師の判断によるものの、発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合でも可能となっています。

また、検体があれば川越市はまだまだPCR検査をする余力があるということです。言い換えれば、インフルエンザのように検体採取ができる場所を増やすことがPCR検査数を増やすことにつながるということになります。

Q：どのような経路でPCR検査に回ることが多いのか？

A：かかりつけ医などの一般の医療機関で検体を採取しているのが約89.7%、「帰国者・接触者外来」で検体を採取しているのが約10.3%です。5月末日までに「帰国者・接触者外来」以外では、54の医療機関で計564検体を採取しています。

Q：現在、無症状の人が検査することは可能なのか？

A：以前より発症者の濃厚接触者に対し、無症状でもPCR検査を実施してきました。

Q：唾液でのPCR検査が導入状況は？

A：医療機関からの要請があれば採取用の容器を提供の上、唾液での検体を受け付けています。既に1件の検査を実施しています。

Q：新型コロナウィルス感染症においてオンライン診療は可能なのか？

A：初診・再診問わず、オンライン診療が可能です。オンライン診療可能な医療機関は厚生労働省のホームページで公表されており、市内36医療機関が掲載されています。

ここで提言！検体採取してもらいやすい体制づくりを！

質問を通して、検査に回る経路は約9割がかかりつけ医などの一般の医療機関で検体採取された後に保健所などでのPCR検査実施となっていること、唾液による検査やオンライン診療も可能であることが明らかになりました。